

井原市民病院だより

No.30

2015年6月発行

井原市の花 パンジー

日本医療機能評価機構 病院機能評価Ver.6.0認定

地域とともに歩む、 より愛される病院を目指して



Mission (使命)

地域住民の尊厳を守り、命を守り、
健康増進を支援する

Vision (将来展望)

いつでも安心してかけられる、
身近で愛される急性期病院

今年のスローガン

急性期医療の充実とフラットな
多職種協働連携チーム医療の推進

Ibara City Hospital

井原市立井原市民病院

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地
TEL 0866-62-1133(代) FAX0866-62-1275(代)
E-mail byoin@city.ibara.okayama.jp

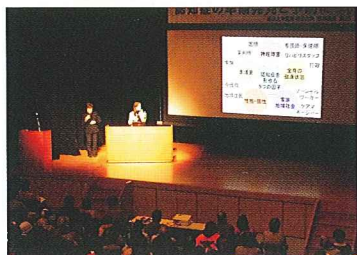
診療科目

内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科・眼科
小児科・脳神経外科・放射線科・麻酔科・耳鼻咽喉科
リハビリテーション科・婦人科・泌尿器科・皮膚科

発行責任者：山田 信行

第3回市民公開講座

前庶務係長 津組 勇一郎



平成27年2月1日(日)、アクティブライフ井原メルヘンホールを会場に第3回となる市民公開講座「認知症の早期発見と予防について」を開催しました。

定員300名とさせていただいておりましたが、500名近い参加をいただき、改めて、市民の皆さまの健康に対する関心の高さを感じました。

(当日は、いろいろとご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。)

厚生労働省によりますと、現在我が国の65才以上の約15%が認知症であると推定され、今後、高齢者人口の急増とともに認知症患者数も大きく増加するという、たいへん心配な報告がなされています。

併せて、認知症については、病気になられたご本人はいうまでもなく、介護をされるご家族にもたいへん大きな負担がかかるため、現在では一つの病気としてだけでなく、深刻な社会問題となっています。

そうした中、今回の公開講座は、「認知症の早期発見と予防について」と題し、岡山大学病院神経内科 病院講師の菱川先生からご講演をいただきました。

菱川先生からは、

- 1) 認知症は治療可能な病気である。
- 2) 早期発見が大切である
- 3) 最も多いアルツハイマー型認知症の症状の特徴
薬物療法の現状など

たいへん貴重なお話をいただきました。

中でも、アルツハイマー病の予防については、魚の習慣的摂取、少量から中等量の赤ワインの飲酒、抗酸化ビタミン(ビタミンC、ビタミンEなど)の摂取、地中海料理(魚・豆・穀物・野菜中心の低脂肪食)、緑茶の摂取、運動習慣などが、効果があると発表があり、今後の生活習慣に取り入れていきたいと感じました。

また、井原市が実施する集団健診の会場で実施した「認知機能検査」の途中報告があり、適度な運動と趣味を楽しむ習慣のある方は、認知機能の低下が少ない(認知症の予防につながっている)との報告がありました。

菱川先生には、認知症の前兆や早期発見の重要性、予防のポイントや最新の治療法などについて、分かりやすくご講演をいただきました。今回の公開講座が、ご参加の皆様方にとって実り多いものであれば幸いです。認知症を含め、在宅での医療・介護の取り組みが、今後ますます進んでいくことを期待いたします。

今後も引き続き、市民公開講座の開催や、病院だよりを発行し、市民の皆さまへ、医療を取り巻く諸問題や市民病院の運営状況等をお伝えしていきますので、よろしく願います。



外来診療新設・増設のご案内

◇ 脳神経外科(外来)を再開

平成27年4月より、休診となっていた脳神経外科外来を再開しました。

診療日は、毎週水曜日(祝日は休診)午前で、川崎医科大学附属川崎病院 医長(講師)の大西 学 先生が担当いたします。

(大西先生からのコメント)『お悩み相談から頭痛・めまいなど頭のことなら何でも診ます。』

【専門分野】脳神経外科全般。日本脳神経外科学会専門医/日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医。

◇ 内科(肝臓病専門外来)の新設

4月から毎週木曜日、肝臓疾患専門外来を始めています。担当は、前福山市民病院 医療技術部長の下江 俊成先生です。

(下江先生からのコメント)『C型肝炎は新薬で治療できる病気となりました。肝臓のことならなんでもご相談くだ

さい。』

【専門分野・資格】消化器・肝臓・感染症。日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、日本医師会認定産業医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

◇ 内科(糖尿病内科)、皮膚科外来が週2日体制に

糖尿病内科外来が、毎週、水曜日午後、金曜日午後がひるがわ加わり、週2日の体制となりました。担当はすが蛭川先生と菅先生です。

また、皮膚科外来も、毎週、火曜日と金曜日の週2日となりました。担当は井形先生と水野先生です。いずれの診療科も地域における患者数・ニーズが高く、岡山大学・笠岡市民病院、川崎医科大学より派遣応援をいただくこととなりました。

外来各診療科の詳細は別紙『外来担当表』をご覧ください。

320 列 CT と被爆低減の取り組み

放射線科長 中村 博之

4月某日の新聞報道に「医療被曝 抑制へ基準」と題して以下のような記事がありました。

CT検査やX線検査などの放射線検査の関連学会などでつくる団体（医療被曝研究情報ネットワーク）は18日、検査方法の統一基準を初めてまとめました。日本は「医療被曝（ひばく）大国」と言われており、過剰な被曝を抑えていくことが狙いです。日本は年間のCT検査が約3650万件（2000年）で、人口当たりの件数が世界で最も多い国の一つ。国民1人当たりの医療被曝は先進国平均の約2倍とのデータもあります。

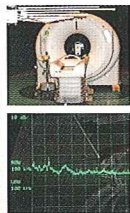
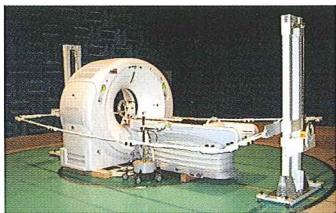
記事をお読みになった患者様からも被曝に関するお問い合わせも多く、1月26日に当院に導入した320列CTの被ばく低減のための工夫についてご紹介させていただきます。

Active Collimator : X線ビームコリメーション

通常、寝台移動を伴うヘリカルスキャンでは、スキャンの開始位置と終了位置において、画像再構成に寄与しないX線照射域が存在します。

この帯域をコリメータによりカットすることで、画像診断に不要なX線を低減します。これにより最大20%程度の照射線量を低減できます。

Gantry : ステルス塗装

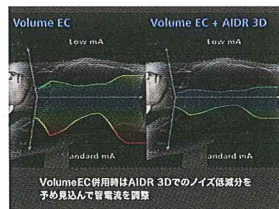


CT 架台（ガントリー）の塗装にノイズ吸収塗料を使用しています。

写真はEMC（Electromagnetic compatibility）試験の様子。電磁波による障害を受けにくい特性が示され、従来の約3倍の電磁ノイズを除去できます。これにより画質が改善され、より線量を低減した撮影の実現に繋がります。

Volume EC / Real EC : XYZ方向管電流変調 / 撮影 / Z方向管電流変調 / 撮影

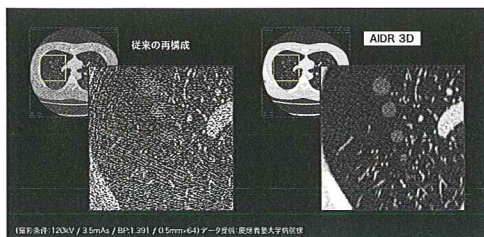
XYZ方向（Real ECはZ方向）からの照射線量を変調させ、体格及び対象臓器に合わせた必要線量をコントロールすることができます。



画質を劣化させずに最大50%程度の被ばく低減が可能です。

AIDR 3D : 逐次近似応用再構成

収集された投影データ上で、統計学的ノイズモデル、スキャナーモデルを用いてノイズを低減します。さらに、アナトミカルモデルを用い、画像再構成の中でノイズ成分のみを抽出して繰り返

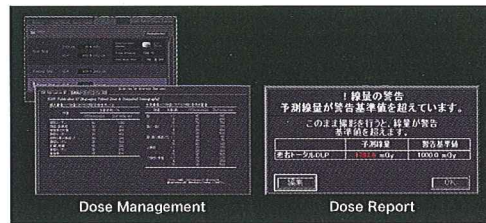


し除去します。

これにより、最大50%のノイズ低減と、75%の被ばく低減効果を発揮します。

AIDR3Dを用いることで低被曝での胸部健診CT検査や大腸健診CT検査、が可能になります。特別な設定を行わずルーチン検査で使用できるため、日常検査において無意識に被ばく低減が可能になります

Dose Guard : 参考値表示



スキャン計画時に、設定条件に対する照射線量(CTDI、DLP)と各種ガイドラ

インの数値を表示します。これにより被ばく線量を意識したスキャン計画を立てることが可能です。

設定した基準値のCTDI、DLPを超えると警告を表示します。その際、撮影担当者の登録と理由を明記することで撮影を施行できるため、責任あるX線照射及び設定ミスによる過剰被ばくを防ぐことに繋がります

心臓 CT 検査

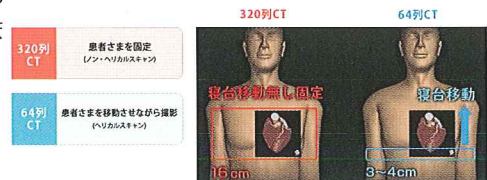
被曝線量が多いといわれる心臓CT検査においても、従来のCT装置の検出器幅は3~4cmと、心臓の大きさより小さかったため、心臓をなぞるように患者さまを移動させながら撮影していました（ヘリカルスキャン法）。当院に導入した最新鋭のCT装置は16cmのワイドエリアな検出器を搭載しているため、患者さまは撮影寝台に寝たまま（寝台固定）で、心臓全体を1心拍で撮影することができます。

この撮影法により、従来の寝台移動によって発生した階段状アーチファクトはなくなり画質が大きく向上するだけでなく、撮影時間は約1/20（約7秒→最短0.35秒）、造影剤量は従来の64列CTの約半分程度になります。また、放射線被ばくも1/5程度まで落とすことができ、質の高い検査を提供しながら患者さまの負担を軽減することができます。

今回のご紹介はごく一部ですが、様々な被曝低減の工夫をされたワイドエリアな検出器（320列）を搭載した画期的なCT装置です。検査プロトコルにおいても、検査の目的に合わせてノイズ量の設定に限らず、コリメーション、ヘリカルピッチ、再構成スライス厚など、線量・画質に影響するパラメータの設定にも最適化を図りながら、患者様に安全・安心な検査を御提供できるよう努力を続けて参りますので、ぜひともご体験ください。

■今回導入した最新鋭320列CT装置

1回転で心臓がスッポリ入るワイドエリア検出器を搭載



まいづる連携 講演会

地域医療連携室長
副看護部長

渡邊 栄子

第10回「まいづる連携」連絡会を、平成27年3月16日(月)18時から当院理学療法室で開催しました。今回は、岡山県介護支援専門員協会 会長 堀部 徹 先生をお招きし「地域づくりにおける医療介護の連携は?~平成26年介護報酬改正を受けて~」と題してご講演を賜りました。

まいづる連携を昨年6月に立ち上げた当初より堀部先生に是非講演をお願いしたいと思っていました。そして今年度最後の連絡会に先生に来院していただき講演会を開催することができました。大感激するとともに堀部先生に感謝いたしております。(参加人数は91名)

講演は地域包括支援システム構築に向けて、分かりやすく、医療・介護の地域マネジメントの考え方、介護報酬改定について最新の情報をおりませた内容でした。

改定では、病院や診療所で行っている訪問看護のみがベースアップ、他の介護サービスでは「取ってみるなら取ってみる加算」と称されたように介護報酬算定も医療の加算と同様に要件が厳しく苦勞して算定しなくてはならないこともわかりました。

退院調整については、兵庫県の例を上げて教えていただきました。当院では平成22年2月より退院支援システムを構築し、ご紹介のあった「退院調整ルール原案」に近いシステムはすでに稼働しており、当院の入院患者様で介護保険の認定を受けられている方については、ほぼ地域の

ケアマネさんのご協力を頂いて連携がとれていますので、これからも維持できるよう頑張ろうと思います。

さらに今回の改定においては、高齢者ができる限り住み慣れた地域で尊厳を持って自分らしい生活を送ることができるように「地域包括支援システム」の構築に向けた取り組みを進めていく必要があり、最新の情報を教えていただきました。またこれまでのプランの立て方とは違い、「活動」「参加」に焦点を当てた質の高いリハビリテーションのマネジメントが求められていること、看取りについても今までのように『病院で亡くなる』という考えから『地域で看取りをする時代』へみんなで認識を改めていく必要があることもわかりました。今回の先生のお話は、「まいづる連携」の進むべき方向、課題を示していただいた内容であり参考にしたいと思いません。

「まいづる連携」の活動を通して地域包括ケアシステムの構築に寄与できるよう皆様のご協力をお願いします。最後になりましたが堀部先生ありがとうございました。これからもご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



新任のごあいさつ



庶務課長 中原 康夫

この度、4月の人事異動で市役所福祉課から異動になりました中原です。どうぞよろしくお願いいたします。私は、昭和51年4月、美星町役場に就職。平成14年4月、井原市・芳井町・美星町の合併協議会へ出向。そして、平成17年3月1日に井原市の職員となりました。職に就いて以来、様々な部署を経験しましたが、病院という全く未経験の領域への挑戦です。

私は、幼少の頃から体が弱く、栄養失調の如くガリガリでした。そのため、両親は近所の搾乳農家から牛乳を分けてもらい、私に飲ませていましたが、非常にまずかった記憶しか残っていません。私が高校生の時、そんな両親はガンと心筋梗塞で亡くなってしまいました。また、父の兄弟も皆、早くして病気で亡くなっています。

そのため、私は、健康については強い関心を持つように、いや、病気に対する恐怖を抱くようになったと言った方が当たっていると思います。特に、ガンに対して恐怖を抱いていると思います。ノンフィクション作家、柳田邦男の「ガン回廊の朝(あした)」という本を皮切りに同氏の医療シリーズは、今でも本棚に・・・。

なぜ、私の身の回りにガンが多いのか、とても気になります。柳田邦男の本を読んでいて、医療は、人を変えると強く思っています。ほとんどの人は医療と無縁では生きていけず、そして、人はいつか死んでいきます。その過程で、医療に関わらざるを得ないと言っても過言ではないでしょう。その時の関わり方によっては、人の医療

に対する考え方が、良い方に変わったり悪い方に変わったりするのだと思います。

市民病院の使命は「地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する」です。市民に愛され、信頼される病院で有り続けられるよう、病院職員の一員として頑張りたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



庶務係長 藤本 勸

この度、ご縁ありまして井原市民病院に勤務させていただきますこととなりました藤本です。どうぞよろしくお願いいたします。私の出身は、岡山県倉敷市玉島で、遠い昔の名残を多く残す港町です。

私は、大学を卒業後、広島県廿日市市にありす国立療養原病院に就職し、これまで中国地区のいくつかの国立病院・療養所に勤務して参りました。趣味はスポーツクラブのプールで泳いだり、小説を読んだりすることです。

井原は自然に恵まれ、落ち着いた環境ですし、親切でいい人ばかりなので快適に勤務させていただいていることに感謝しております。

近年、公立病院は全国的に経営状況の悪化のため、厳しい状況が続いております。当院についても経営効率化の視点に立って、地域医療の確保のため重要な役割を果たしていく必要があります。これまでの経験を活かし、経営改善し地域の医療に貢献できればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

地域医療研修を終えて



岡山大学病院 初期研修医 岡野 美咲

初期研修プログラムとして平成27年4月、1ヶ月間地域医療研修をさせていただきました。短い期間ではありましたが、地域医療研修ならではの内容や私の希望を含んだ研修プログラムを組んでいただき、非常に有意義な研修をさせていただけたと考えております。大学病院との違いとして1番始めに感じたのは、診療科や業種間の垣根が低いということです。1人の患者さんをみていくにあたって、互いに情報共有し、話し合うことによってよりよい医療の提供につながると感じました。研修期間中には、NSTに参加して栄養面から患者さんの状態について考えたり、実際にリハビリをされているところを見たりしました。そのような経験は大学病院での研修ではなかった部分で、新鮮に感じると同時にとても勉強になりました。また、訪問看護や

訪問リハビリに同行させていただき、より地域の患者さんの生活に寄り添った看護やリハビリの様子も見る事ができました。地域連携や退院支援についても、これまでの研修ではもてていなかった視点から患者さん1人1人をフォローされていたことが印象的でした。その他にも、エコー検査を中心に指導を受けながら実際の患者さんの検査をさせていただいたり、志望科である皮膚科の外来業務を見せていただいたりする機会をもつことができ、1ヶ月の間に本当に多くの経験をさせていただきました。

最後になりましたが、山田院長先生をはじめ、研修にご協力いただきました皆様方には、心より感謝申し上げます。井原市民病院での地域医療研修で教えていただいたことを忘れず、将来的には地域医療に貢献できる医師となれますよう、これからも研鑽を積んでまいります。ありがとうございました。

地域医療実習を終えて



岡山大学医学部3年生 大前 凌

この度、平成27年3月16日から20日までの1週間地域医療体験実習として井原市民病院で実習させていただきました大変お世話になりました。さまざまな診療科の外来見学、訪問看護・リハビリへの同行やさまざまなカンファレンス・委員会への参加などなかなか普段大学では経験できないような貴重な体験させていただきました。ありがとうございました。

今回の実習を通して、地域医療というなかで井原市民病院が地域の中核病院としてさまざまな工夫をなされていることを知りました。また同時に地域医療の難しさ、直面する問題を知り、だからこそとてもやりがいのある仕事だとも思いました。またチーム医療として多職種のスタッフが集まり協力して、初めて十分な医療ができていたという印象を強く受けました。1週間という時間は短いものではありませんでしたが、地域医療というもの少しずつではありますが見え始めた貴重な体験ができました。この経験をこれからの医療従事者としての自分の人生に活かしていきたいと思えます。最後になりますが、お忙しい中、今回の実習に時間を割いて、たくさんの貴重な体験をさせていただきました本当にありがとうございました。

カンファレンスへの参加、回診の同行、訪問リハビリ・訪問看護の同行、救急車内の見学など普段の授業では経験できない本当にたくさんの実習をすることができ、貴重な経験になりました。今回の実習を通して、医師だけでなく、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床放射線技師、理学療法士、栄養士など様々な職種の方々が協力し合っはじめて医療が成り立っているのだということを強く感じました。井原市民病院では様々な会議が行われていて、チーム医療の体制が整えられていたのが印象的でした。また、大学病院や都市部の病院とは違う、高齢者が多く人口当たりの医師数が少ない井原という地域で行われている医療と置かれている現実を実際に目の当たりにして、医療に対する自分の考えが大きく変わりました。

最後になりましたが、お忙しい中ご指導いただいた院長の山田先生、事務部長の野崎さんをはじめとする多くのスタッフの方々、快く見学させてくださった患者さんにはとても感謝しています。本当にありがとうございました。



岡山大学医学部3年生 平原 智晃

この度、平成27年3月16日から3月20日までの5日間、井原市民病院で実習をさせていただきました。様々な科の外来の見学、CTやMRIをはじめとする医療機器の見学、



新人の紹介

名前 担当科 ①抱負 ②趣味・特技



石井 仁美 (理学療法士) リハビリテーション科
 ①患者様に笑顔を提供できるように精一杯頑張ります。
 ②趣味は体を動かすこと、食べ歩きです。特技はテニスです。



大塚 司 (看護師) 3階病棟
 ①たくさんの方のことを吸収しながら、一日も早く一人前になれるよう日々勉強していきたいと思えます。よろしくお祈いします。
 ②絵を描くことや歌うこと、裁縫などが趣味です。



桑田 裕也 (作業療法士) リハビリテーション科
 ①患者様が安心し、満足していただけるように日々努力していきます。宜しくお願いします。
 ②バレーボール、マラソン



吉岡 真希 (看護師) 3階病棟
 ①患者さまが安心して治療できるように日々努力していきたいと思えます。
 ②韓国ドラマを観ることが好きです

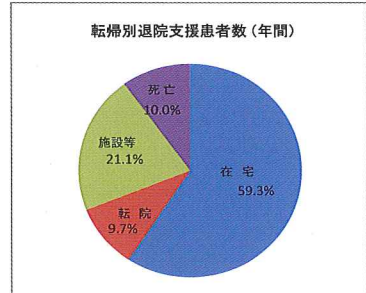
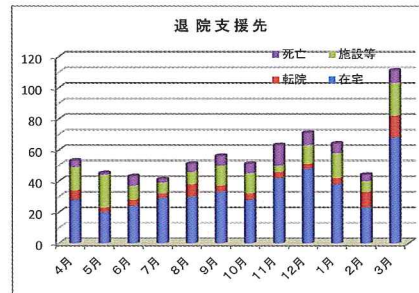
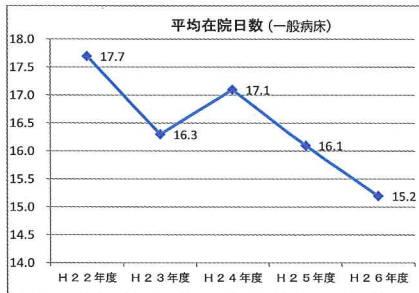
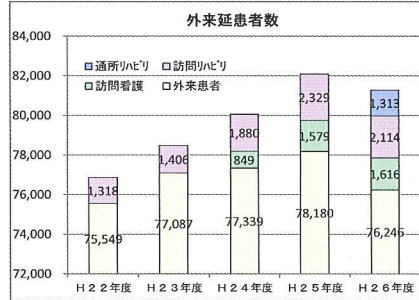


重政 衣里 (看護師) 4階病棟
 ①少し経験はありますが、一からのつもりで頑張ります。よろしくお祈いします。
 ②読書



花本 学 (看護師) 3階病棟
 ①この度、いばら市民病院にて働くことになりました花本です。看護師歴としては8年目ですが、新たな職場で初心を忘れずに頑張っていこうと思えますのでよろしくお祈いします。
 ②バイクでツーリング

平成26年度業務状況及び平成27年度予算概要



平成27年度井原市民病院事業当初予算概要

新年度事業の特色、新規事業等

- ・DPC制度 (診療報酬の包括評価制度) 導入に向け、急性期 (一般病床)、回復期 (地域包括ケア病床)、慢性期 (療養病床) の機能分化を明確にする。
- ・ジェネリック医薬品 (後発医薬品) の採用率を増加 (目標30%) とする。
- ・病院運営協議会のさらなる充実のため、協議会開催回数の増加 (2回→3回) 及び視察を行う。

収益的収支

(収益) 27億2,600万円 (27億4,000万円)
 (費用) 27億2,600万円 (30億5,800万円)
 (差引) 0円 (△3億1,800万円)

※()は前年度

※平成26年度は会計制度見直しにより特別損失を計上したため赤字予算となったが、当年度は収支同額の予算となっています。

【概要】

- ・入院収益については、延患者数が減少しているに伴い減収していますが、地域包括ケア病床、療養病床を有効に

- 運用し、7,000万円の減収、外来収益については、患者単価のアップを目標として4,900万円の増収を見込んでいます。
- ・ジェネリック医薬品 (後発医薬品) の採用率を増加することにより、薬品費が減少。
- ・CTの更新1年目で保守料が無料となり委託料が減少となっています。

資本的収支

(資本的収入) 2億3,668万円 (3億4,585.4万円)
 (資本的支出) 3億2,857万円 (4億8,154.4万円)
 (差引) △9,189万円 (△1億3,569万円)

※()は前年度

【概要】

- ・資産購入費については、収益、患者サービスの向上、医療の専門性、質の向上につながる新規機器を導入するとともに、病院更新築当時に整備した医療機器の経年劣化に伴う故障も多く、更新時期を迎えていることや保守対応終了などにより、部品供給が停止している機器等が故障した場合診療に影響を及ぼす可能性の高い機器より更新することとしています。

病院の日・看護の日、永年勤続表彰



毎年5月12日は、病院の日・看護の日です。当院においては、これまで看護部が外来ホールで血压測定などの健康チェックを行ってきましたが、外来診療日（平日）であり、参加者も限られ、参加者の多くが外来受診者で健康チェックの検査項目は診察時に行っていること、外来ホールで十分なスペースやスタッフ確保が困難であること、健康チェックは毎年秋に『市民病院健康まつり』で取り組んでいることなどから、今年度は少し志向を凝らして、日頃看護部が取り組んでいることや部門の紹介をパネル展示し、多くの方々に少しでも理解を深めていただくことを目的に企画しました。これまではその日の行事で終わりますが、5月12日から1週間展示することにより、患者・家族等多くの来院者の方に見ただけのメリットがあります。展示期間中、待ち時間等を利用して多くの方が、熱心に見ていただき所期の目的を十分に達成することができました。健康チェックを楽しみにされている方は『健康まつり』に参加いただければと

思っています。

また、例年どおり、病院の日に合わせて「勤続15年の職員表彰」が行われました。2名の職員に山田院長から表彰と記念品が贈られ、永年勤続に対する労いとお祝いの挨拶があり、職員から謝辞が述べられました。

（表彰された方々は次のとおり）

医療技術部長 島田 百利三

看護師 亀山 鈴（敬称略）



まいづる保育園だより

「お別れ会」

3月19日にお別れ会のイベントを行いました。昨年度の卒園児は5名でした。5名とも、日頃からとても仲が良く「〇〇ちゃん、いっしょにあそぼー。」「今日は〇〇ちゃんのとおりできゅうしょくたべたい。」などという声が聞こえたり、「きょうは〇〇ちゃんおやすみ？」という声も聞こえていました。

お別れ会当日は、卒園児みんなとても緊張しており、恥ずかしそうに入場していましたが、たくさんの保護者の方の前で名前を言ったり、大きな声で歌をうたったりと成長した姿を見ていただくことができました。

※ 卒園児5名です。



「お楽しみ会」

4月24日にお楽しみ会のイベントを行いました。昨年度3月から入園してきた子もいますが、継続児ばかりなので、イベント前から保護者同士で会話をする姿が見られたり、子供たちもお父さんやお母さんが保育室に入って来られると手を振ったり、「おーい！おかあさーん。」などと声を掛ける子もいました。

イベントでは、自己紹介の手遊び歌をお父さん、お母さんと一緒にしたり、保育者によるペープサートを楽しむように見る姿も見られました。イベントの最後には宝つりのお土産をもらい、子どもたちだけではなく、保護者の方にも喜んでいただけたイベントになりました。



平成 27 年度健康教室のご案内

今年度のテーマは「認知症」です

開催日：毎月第 3 水曜日

時間：11 時 30 分～12 時

場所：玄関ロビー

月 日	内 容	担 当	月 日	内 容	担 当
6 月 17 日	「認知症予防 ～見直してみよう、食習慣～」	管理栄養士	9 月 16 日	「認知症と向き合って (パート②)」	看護師
7 月 15 日	「認知症の検査について」	臨床検査技師	10 月 21 日	「認知症って薬で治るの？」	薬剤師
8 月 19 日	「認知症予防 ～脳を鍛える脳体操～」	作業療法士			

11 月以降につきましては、次号にてお知らせします。

糖尿病教室のご案内



井原市民病院では、患者様やそのご家族を対象にした糖尿病教室を毎月さまざまな内容で開催しています。

開催日：毎月第 2・4 水曜日、11 時～11 時 30 分

場 所：玄関ロビー

糖尿病昼食（400 円）ご希望の方は 2 日前までに申込が必要。
（食事不要の方は、事前予約不要です。） 昼食：11 時 30 分



問合せ・食事申込：井原市民病院 内科外来 62-1133 (代)

職員募集！

井原市民病院では、次のとおり職員（正職員）を募集します。

- ・応募職種及び人員 ①理学療法士：若干名 ②作業療法士：若干名 ③看護師：若干名
- ・採用時期：平成 28 年 4 月 1 日または平成 27 年度中
- ・応募資格：昭和 46 年 4 月 2 日以降に生まれた人、
①～③免許取得者又は取得見込み者
- ・試験日時：平成 27 年 8 月 22 日（土）
- ・試験内容：適性検査、作文試験、面接試験
- ・受付期間：～平成 27 年 8 月 7 日（金）必着。



応募要領 詳しくは当院ホームページをご覧ください

こんな天気予報だったら

あべ こうぞう

皆さんは夕焼けがすると明日は天気になると言うことはご承知ですよね。反対に朝焼けすると今日の天気は良くないこともご承知かと思いますが、どうでしょう。

昔の人達は各種各様な自然現象から天気の前報予測をしていたのです。それは農作業や漁・猟の目安、行事の予定、旅立ちや航海についても天候との相談であったはず。縁起・願担ぎでもあったことでしょう。

さて、今回の話は気象学的な天気予報の話ではなくて、夕焼けに託す明日への勇気付けの話をしたしたいと思います。

それは今日一日、良いことが少なかったり、全くなかったりしたけれど明日こそはと、また明日に懸けようと、夕焼け空を眺ながら思うことがありませんか。夕焼けがしたから明日は必ずいい天気になり、いいことが起こるとか、起こって欲しいとか期待をしますよね、願いますよね。

そこで天気のおねえさんには「高気圧が張り出したから明日は晴れるでしょう！」とではなく「夕焼けがしたから明日は晴れますよ。きっといいことがありますよ！」と付け加えて言って頂けたらうれしいですね。

今日一日が良くなかった者にとっては「よし頑張ろう」とファイトが湧くはずで。また良かった者は「もっと頑張ろう！」となるはずですよ。と言うのはどうでしょう！